

より良いオープンデータ推進のために

総務省地域情報化アドバイザー 石塚 清香



プロフィール

石塚 清香 総務省地域情報化アドバイザー／一社）Code for Japan

年度	経歴
1991	横浜市役所に入庁 都筑区分区担当配属
1995～2011	教育委員会情報教育課 教育用PC・インターネット環境整備担当 総務局情報システム課 新国保システム運用担当
2012～2016	金沢区役所福祉保健課、地域振興課に所属 2013年にオープンデータを活用した子育てポータル「かなざわ育なび.net」を 立ち上げるなど I C T 活用に関する企画・実装・運用全般を手掛ける
2017～2020	デジタル専任職として経済局に着任し、局内のICT活用支援業務を担当 2020年にはコロナ禍で密状態となっていた窓口の緊急オンライン化を支援 事業者の窓口滞在時間を3時間から1-2分に短縮することに成功
2021～2022	デジタル統括本部企画調整課、デジタル・デザイン室に所属 2022年12月 横浜市役所退職
2023.2	一般社団法人Code for Japan

主な活動実績



育なび.netの企画・構築（2013年）

様々な部署が持つ子育て関連オープンデータを集約し、子どもの生年月日と居住地の郵便番号でパーソナライズして届ける子育てポータルサイト&アプリ。本サービス発表後、全国各地で同様の子育てアプリが立ち上がるキッカケとなる。



緊急時情報システム（5Co Voice)の構築支援（2015年）

固定電話などに音声による一斉配信で情報の「伝達」と「収集」を行うシステム。世界銀行ハッカソン発のプロダクトをベースに、市民協働条例に基づく民間企業とのコラボで構築。

300人程度ならば2分以内に発信が完了し、その後のダイヤル操作によるアンケートは20分以内に約7割が回答。

現在は（株）137のプロダクトとして一般販売され、各地で活用される。

主な活動実績



金澤写真アルバムの企画・構築（2017年）

横浜市金沢区が保有する写真を収集し、オープンデータとして公開できるサイト。区民などからの画像提供も受け付けている。
世代間交流イベントなどに活用可能。



Code for Japan/Code for YOKOHAMA

市役所在籍時からシビックテック活動に関わる。
2016年のCode for Japan Summitでは現役稼働中の区役所庁舎での開催実現を主導。シビックテックに関わるメンバーだけでなく、自治会町内会や民生委員などの区民も集まり、様々なテーマでディスカッションを実施。

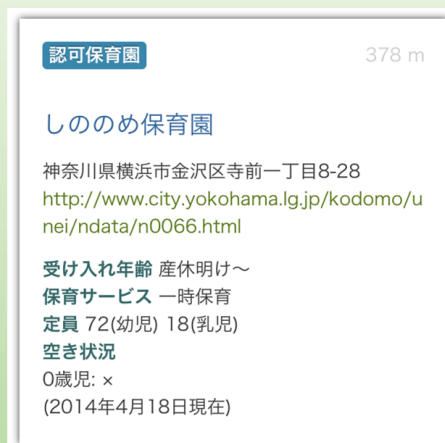
育なび.net (2013)

WEBサイトでバラバラになっていた子育て関連オープンデータを集約し、子どもの生年月日と居住地の郵便番号でパーソナライズして届ける子育てポータルサイト&アプリ。

パラメーターとして「**子どもの生年月日**」「**郵便番号**」または**現在地の座標**を利用
【パーソナライズ例】



生年月日ごとに決められている乳幼児健診日程を抽出



郵便番号or現在地座標で
保育園を近い順に表示
生年月日で対象クラスの
空き状況を抽出



予防接種スケジュールの
現在月年齢にマーカー表示

育なび.netで活用したオープンデータ

【こども家庭支援課】

乳幼児健康診査／子育て支援者による育児相談・女性の健康相談／乳幼児・妊産婦歯科相談／母乳・卒乳相談／妊産婦健康相談／両親教室・プレパパプレママ教室／認可保育園／横浜保育室／認可外保育園／認定こども園／NPO等による家庭的保育事業実施園／家庭保育福祉員／金沢区内幼稚園／保育所入所状況／金沢区内公園レビュー／おでかけスポット

【福祉保健課】

ぱくぱく幼児食教室／もぐもぐ離乳食教室／乳幼児食生活健康相談／歯ぴか教室／医療機関／医療機関：予防接種・乳幼児健診／医療機関：救急

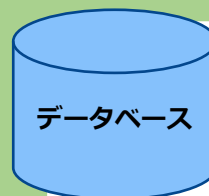
【総務課】津波避難施設一覧／広域避難場所／地域防災拠点

【金沢土木事務所】公園遊具一覧

【金沢消防署】ケガの予防対策

【地域振興課】金沢区内公園／金沢区内施設／金沢区内で発生した事件

【こども青少年局】子育て家庭応援事業「ハマハグ」協賛店舗・施設



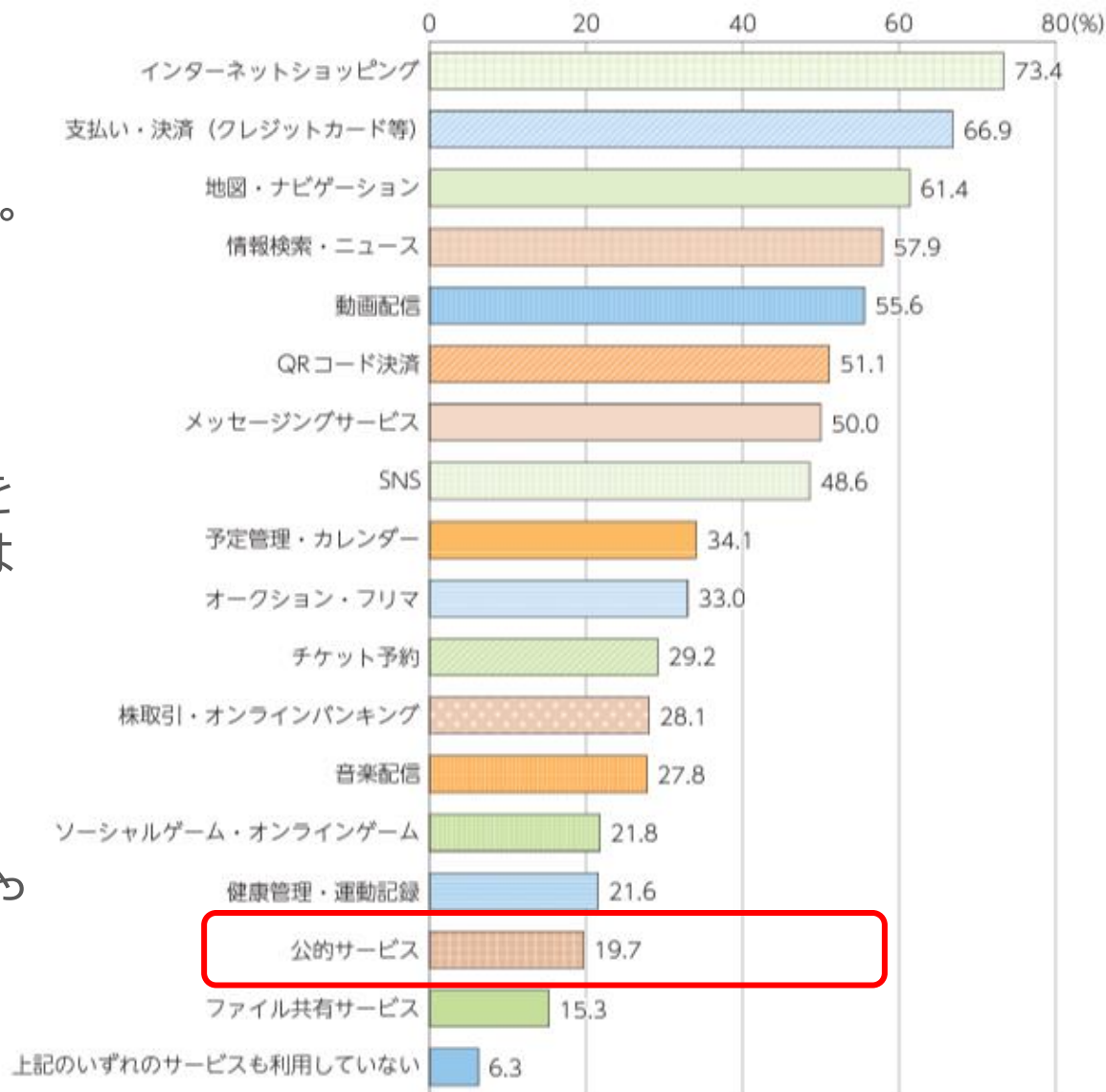
多岐に渡る部署が公開するオープンデータを活用

行政サービスの「競合」はなにか

デジタル化の進展によって行政サービスが民間サービスとの比較で評価される時代になった。

行政サービスのアップデートを
自前リソースだけで行うことは
不可能

オープンガバナンスによる民間や
シビックテックとの協働が必要
とされるようになる



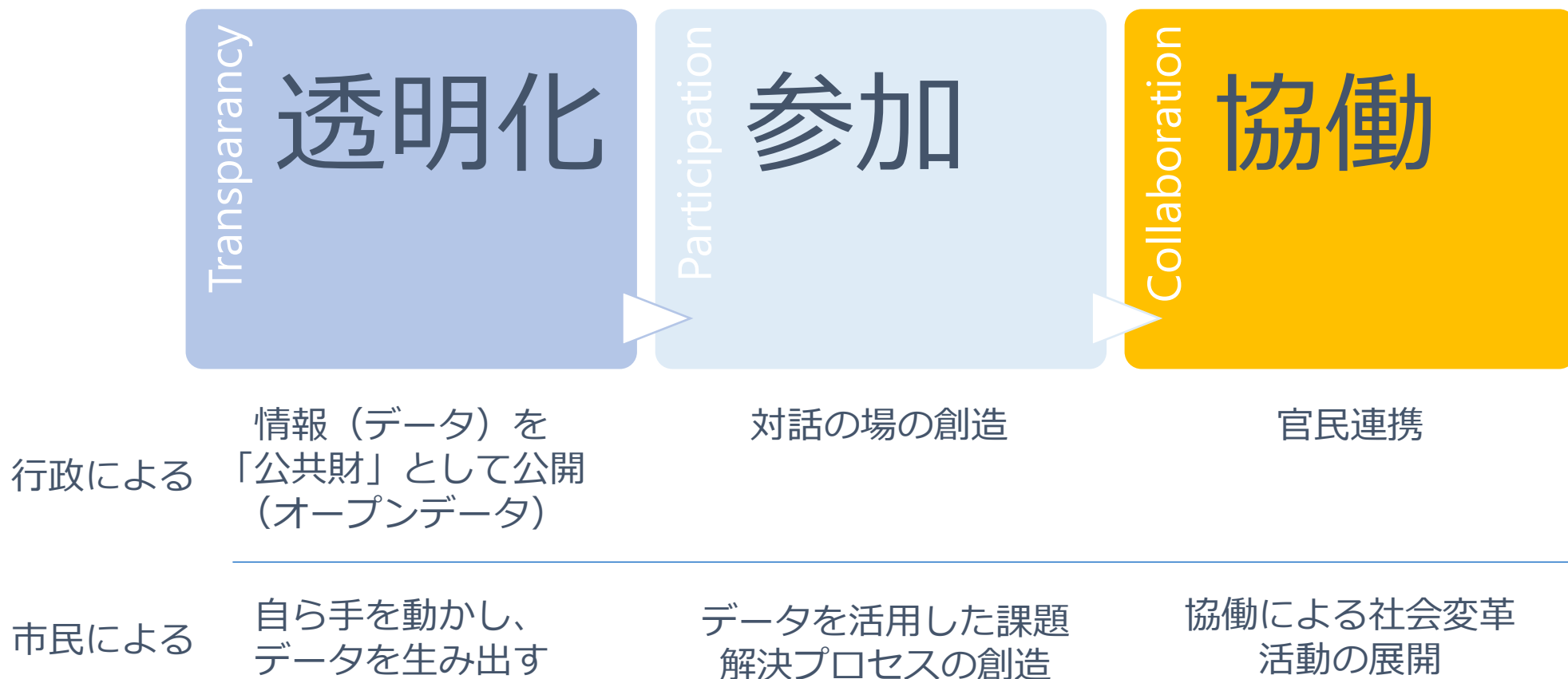
オープンガバナンスとは？

行政側のオープン化と、市民側の積極的な課題解決への関与をもって達成する、社会全体の新しい統治プロセス体系

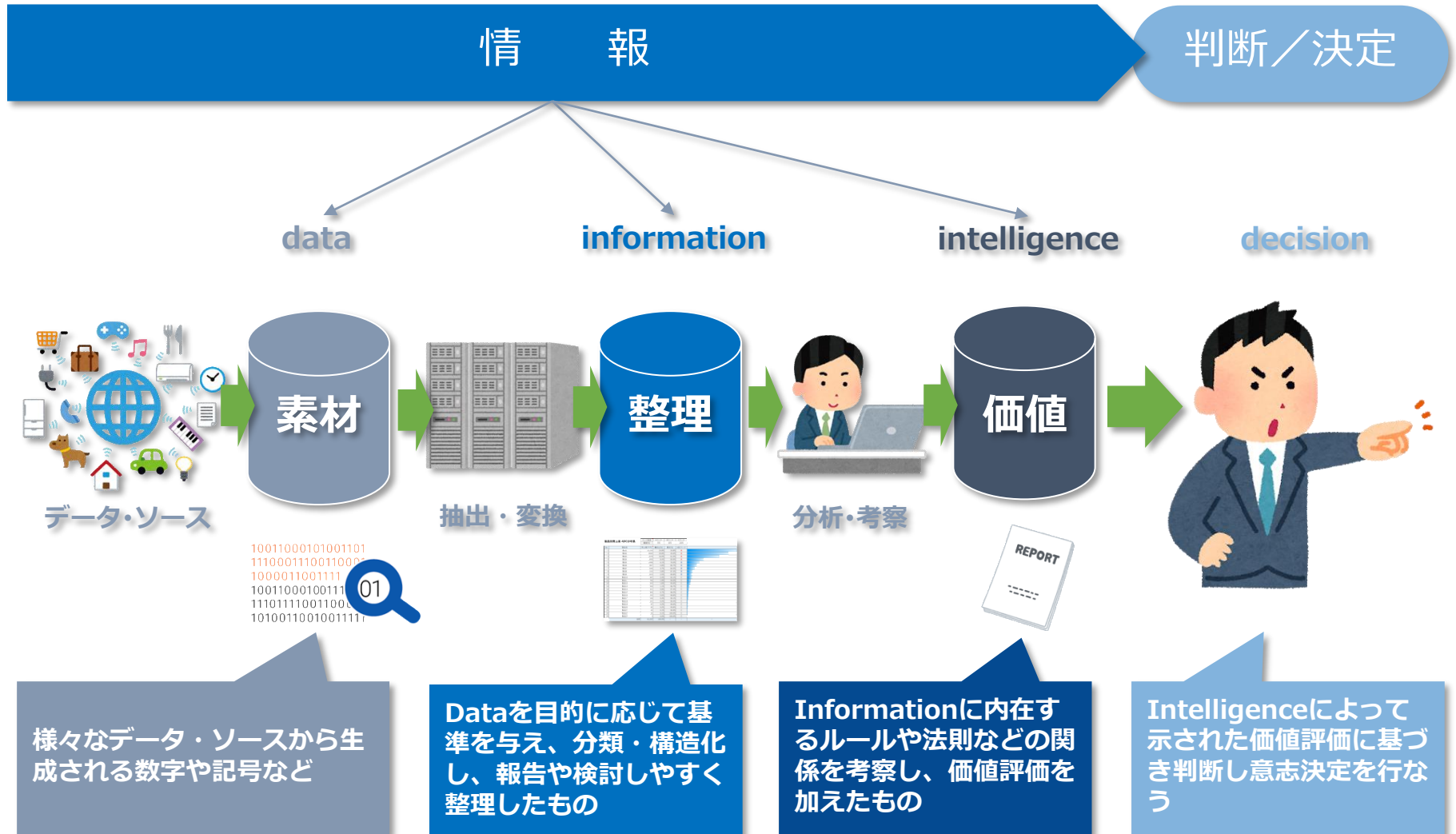


行政：× 「できません」 「担当ではないです」 → ○ 「共に解決する」 「共に活動する」
市民：× 「やってください」 「お願いします」 → ○ 「共に解決する」 「共に活動する」

オープンガバナンスの3ステップ



「情報」を意味する3つの英単語の違い



より良いオープンデータ活用推進のために

自治体側	自分達の価値観を押し付けることなく、様々な要望に応えることを心掛ける (食べたいものはカレー？シチュー？豚汁？) 情報はほかのものと合わせることでさらに価値を持つ可能性があるを知る (学校は、教育の場であると同時に、防災拠点や避難所にもなる。) データは質が良いほど、数がまとまるほど、多様性が高いほど価値がある (周辺自治体との連携ができるのであればそれがベター) データ入力フローの入口はできるだけ発信源に近づける (保育園→自治体集約→データ よりも 保育園→データの方がいい)
市民側	最初から完璧なデータを求めない (ともにつくる意識でデータを使う) 誤りを見つけた時には「指摘」ではなく「アドバイス」を (責められるのは誰だっていい気持ちはしない) オープンデータを使って良いツールができた時にはご一報を (自治体はいつも「それが何に使われたか」という説明責任を求められている)

最も必要なものは「対話の場の創造」

共通して大事なこと

利用者を中心に考える

- ✓ サービスによって価値を提供すべき人を中心に考えることで、余計なノイズを払う

最初から100点満点を目指さない

- ✓ まずは作ってためす（プロトタイプが先）
- ✓ 60点を繰り返すくらいの気持ちで（60点→84点→93.6点）

手段を目的しない

- ✓ デジタル技術を使うことが目的ではなく、サービスの向上が目的

Thank you!!

